

APSCC2016 参加報告

2016年10月10日



葛岡 成樹



© APSCC

目次

概要 :	1
感想 :	1
主なプレゼンテーションとトピックス :	2
1. Welcome スピーチ	2
2. An Industry in Transition	2
3. Satellite Cost & Competitiveness	2
4. Rise of HTS in Asia	2
5. Space-X	2
6. The Battle of In Flight Connectivity	2
ちょっと一言	2

概要 :

アジアパシフィックにおける衛星・宇宙産業界の非営利企業団体である the Asia-Pacific Satellite Communications Council (“APSCC”)が主催する、APSCC2016 #SATECRevolution が2016年10月4日から6日の間、マレーシア・クアラルンプールのホテル、Le Meridien で開催された。約500人が、主にアジア・欧州・北米から参加した。本来この会議は衛星通信(SatCom)事業及び通信衛星(ComSat)が議論の中心であり、地球観測ビジネスに主に携わってきた筆者は参加したことはなかった。今年は小型衛星のトピックスも含まれており、また最新のSatCom 市場状況とそのComSat 製造市場への影響を把握する目的で、初めて出席した。

感想 :

この会議の直前にパリで開催された Euroconsult 主催 World Satellite Business Network にて、固定衛星通信業(FSS)の売上が今年初めて低下したことが気になっていた。この市場の動きが衛星製造業、さらには宇宙産業全体にどのような影響を及ぼすかという点を知りたくて出席した。

通信衛星の HTS 化の動きは止められない。しかし、HTS 衛星が打ち上がったとしても、ユーザの需要がどこに・どれだけあるのかは未だ明確になっていない。既存の衛星通信への需要が伸びない中で、HTS 衛星の投入により供給過剰を恐れる声が多い。In Flight Connectivity (IFC) という用語で航空機の常

時大容量接続に HTS に向けた需要拡大を期待している人も多いようであるが、一方この IFC 市場がどこまで伸びるのか、それにのみ頼って良いのかという議論もあった。アジアにはアジア特有の通信需要があり、欧米のように今直ちに数百 Mbps の大容量通信が大量に必要というわけでもない。しかしアジア固有の HTS 市場動向、アプリケーションには十分注意が必要である。

<以下省略>

主なプレゼンテーションとトピックス：

1. Welcome スピーチ

<以下省略>

2. An Industry in Transition

<以下省略>

3. Satellite Cost & Competitiveness

<以下省略>

4. Rise of HTS in Asia

<以下省略>

5. Space-X

<以下省略>

6. The Battle of In Flight Connectivity

<以下省略>

ちょっと一言

今回筆者は初マレーシアであった。マレー系、中華系、インド系から構成されているのはシンガポールと同じだが、イスラム色が強いせいか街の雰囲気はインドネシアに似ていると感じた。言葉も料理もインドネシアと共通性が強いようだ。街の様子も、表側のデパート・ショッピングセンターはどこも同じでキラキラ輝いているが、その裏に地元の人がい出しに行く露天の店が並んでいるのもシンガポールより、インドネシアに似ている。

散歩していると生地・服屋の店・露店が並んでいるエリアに迷い込んだ。イスラムの国だから女性が被るヒジャブやその生地が必要ではあろうが、露天の生地屋・服屋がこれだけあって、売れているのだろうか。どうもそれほど客が入っているようには思えない。需要がそれほどないように見えても実は需要はどこかにしっかりあるのか。衛星通信と違って、設備投資は不要だが在庫が効くから成り立っているのか。物価が全般に安いので、利益が出なくてもそこそこやっていけるのか。ヒジャブの店を見ながら、思わず HTS での需要と供給の関係を考えてしまった。



本報告書へのお問い合わせは：



株式会社 サテライト・ビジネス・ネットワーク

<http://sat-biznet.com/contact-us/>

葛岡 成樹



ユーロコンサル日本事務所

<http://www.euroconsult-ec.com>

葛岡 成樹